



デジタル化による暮らしと社会の変化

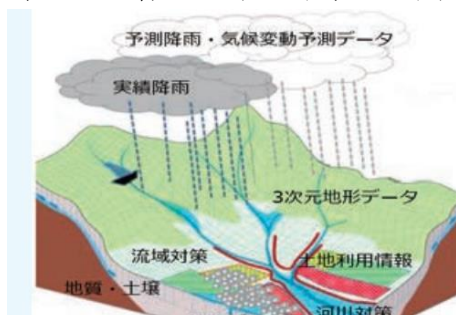
出典：国土交通白書 2023 年版より抜粋

■将来の暮らしに対する意識の動向

デジタル化により実現され得る未来型のライフスタイルについてどの程度望んでいるかをたずねたところ、AI 等の活用による災害や事故の「リスクを最小化できる暮らし」、自動運転機能などの技術により日々の事故リスクが減り、「次世代モビリティにより迅速に救急搬送される暮らし」の2項目について、全世代の4人に3人以上の人が望んでいる（とても望んでいる、やや望んでいる）と回答しており、デジタル化による安全・安心の向上に対する期待が高かった。

世代別に見ると、10代については上記2項目の他、AI 等により仕事や家事が効率化し、「働きやすくよ工事現場の完全無人化により、事故リスクを低減／作業を効率化／担い手不足を解消し多くの人の社会参加が可能となる暮らし」、テレワークや仮想空間（メタバース等）の活用により「住む場所を個人の嗜好に合わせて選べる暮らし」、AI・IoT や自動運転などの活用により「行きたい場所へのアクセスが可能となった暮らし」、デジタルツインの活用による「新たな体験や創造的な活動が楽しめる暮らし」の4項目についても4人に3人以上が望んでいると回答しており、仮想空間の活用を含め、デジタル化による新しい暮らしへの期待が高いことがうかがえる。

- ・AI・IoT などのデジタル活用により、災害や事故の予測情報が充実し未然に被害を防ぐ行動をとるとともに、発災後には状況をいち早く把握しリアルタイムで最適な判断ができ、リスクを最小化できる暮らし（80.5%、76.9%）



<デジタル防災>

デジタルツインによる災害リスクや被災状況の推定・可視化、予測情報の精度向上、早期の情報発信・周知により、災害リスクを低減

- ・自動運転機能などの技術により、日々の移動における事故 リスクが減り、緊急時には次世代モビリティにより迅速に救 急搬送される暮らし（75.6%、76.9%）



<自動建機・ドローン>

工事現場の完全無人化により、事故リスクを低減／作業を効率化／担い手不足を解消

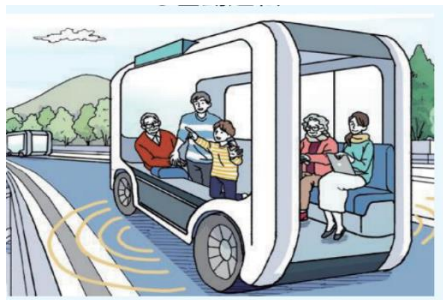
- ・AI・IoT やロボットなどの活用により、仕事や家事が効率化し、重労働や長時間労働が抑制される環境が整い、働きやすくより多くの人の社会参加が可能となる暮らし（74.1%、82.7%）
- ・テレワークやデジタル仮想空間（メタバース等）の活用により、物理的な移動を伴う出勤や買い物を余儀なくされる機会が減少し、自由な時間が増え、住む場所を個人の嗜好に合わせて選べる暮らし（59.7%、76.9%）



<メタバース>

メタバースなど仮想空間の活用により、コミュニケーションを遠隔化 / 交流を活性化 / まちのデザインを最適化

- ・AI・IoTや自動運転などの活用により、自動運転のバス・自動車やエアモビリティなど移動手段が多様化するとともに、オンデマンドやシェアリングなどモビリティ形態も多様化し、行きたい場所へのアクセスが可能となった暮らし（73.1%、76.9%）



<自動運転>

自動運転車の普及により、事故リスクを低減／移動手段を確保／担い手不足を解消

- ・まちが歩きやすく居心地がよくなるとともに、デジタルツインなどの活用により今までにない魅力的なサービスが生まれ、新たな体験や創造的な活動が楽しめる暮らし（61.9%、75.0%）
- ・AI・IoTやMaaSなどの活用により、次世代モビリティを含めた様々な移動手段の接続・連携がスムーズになり、個人のニーズに合った最適な移動サービスや関連サービスが受けられる暮らし（71.0%、73.1%）

- ・脱炭素型のインフラが普及し、AI・IoTなどのデジタル活用により、住宅やオフィスにおいてもエネルギーが効率的に利用できる環境に配慮した暮らし（72.6%、73.1%）
- ・自宅にいながらVR・ARなどで観光地をより臨場感をもって体験できるとともに、旅先を訪れた際にはVR・ARなどで付加価値の高まった新たな体験ができ、より質の高いリアルな旅行を楽しむ暮らし（51.4%、63.5%）
- ・ドローン配送や次世代モビリティの普及などにより、都市でも山間部に住んでいても利便性の高い暮らし（69.4%、65.4%）

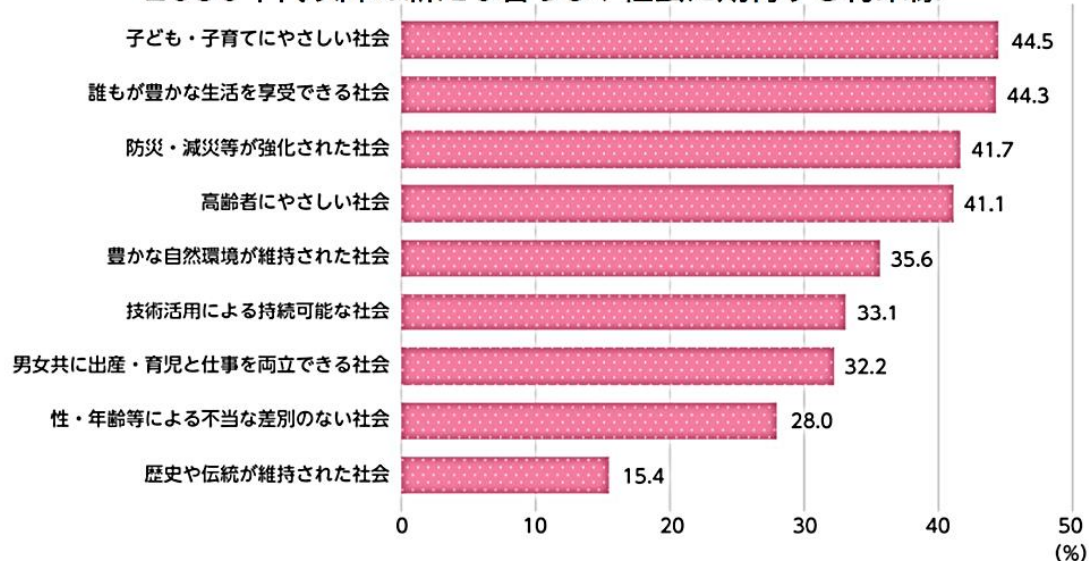
（注）各選択肢における括弧内の数値は、設問に対し、「望んでいる（とても望んでいる、やや望んでいる）」と回答した割合（全体、10代）。

資料）国土交通省「国民意識調査」

■実現が望まれる将来の暮らしと社会

世代を問わず期待の高かった災害リスク管理等の安全・安心への取組みや一人ひとりのニーズにあったサービス、住む場所や時間の使い方を選択できる社会に向けた取組みを加速させるとともに、次世代を担う若者からの期待度が高い仮想空間の活用にも取り組み、デジタル技術を最大限活用したより良い社会の実現を図っていくことが重要である。

2050年代以降の新たな暮らしや社会に期待する将来像

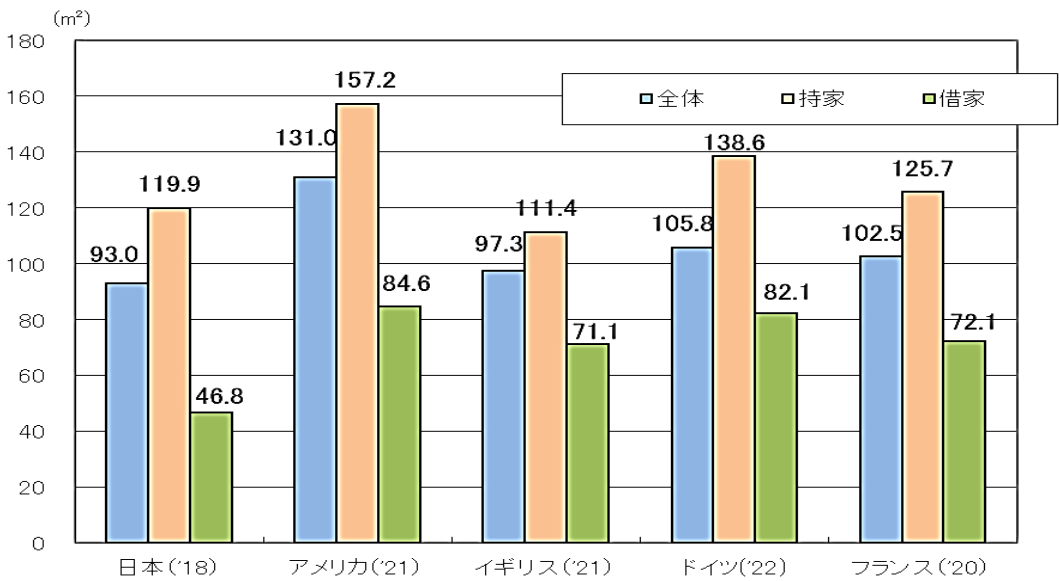


（注）回答者総数 4,320 人。回答者は該当する選択肢をすべて回答し、グラフは選択した回答者数の比率を示している。
資料）国土交通省「国民意識調査」

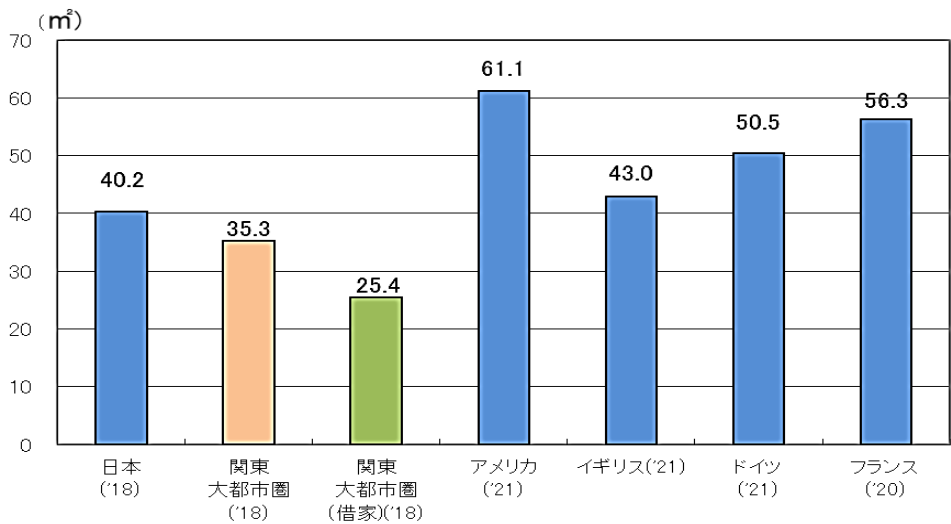
住宅水準の国際比較

出典：令和5年度住宅経済関連データ 国土交通省

(1)戸当り住宅床面積の国際比較(壁芯換算値)



(2)一人当り住宅床面積の国際比較(壁芯換算値)



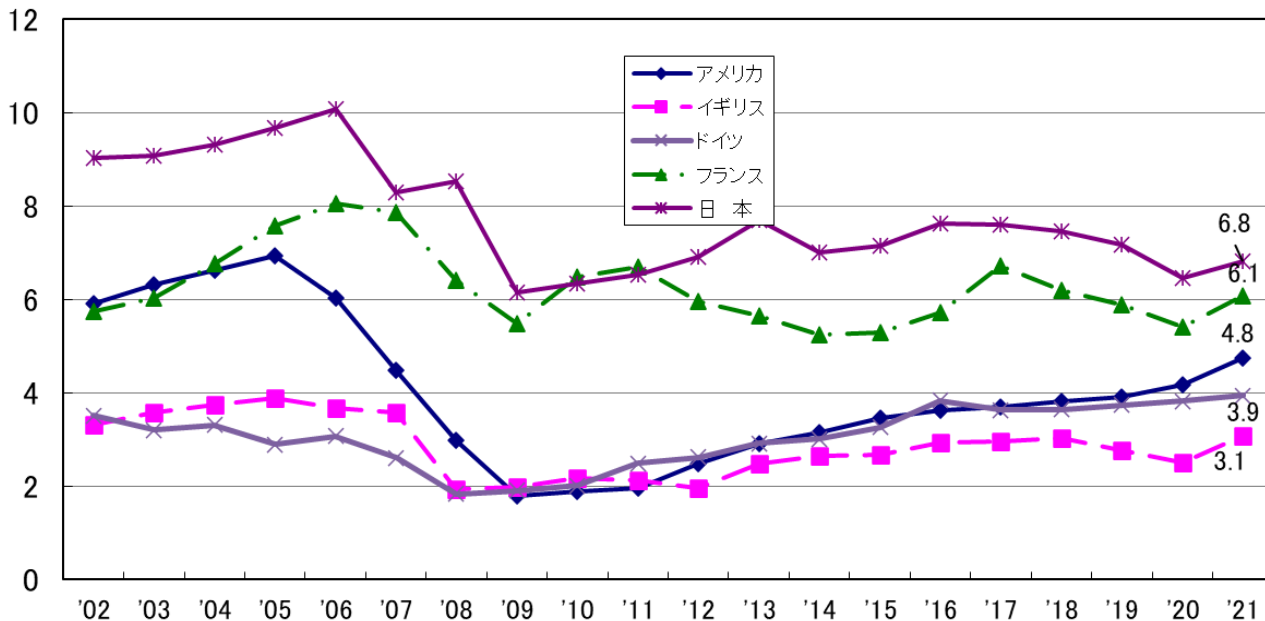
(3)所有関係別住宅ストック数の国際比較

単位：千戸

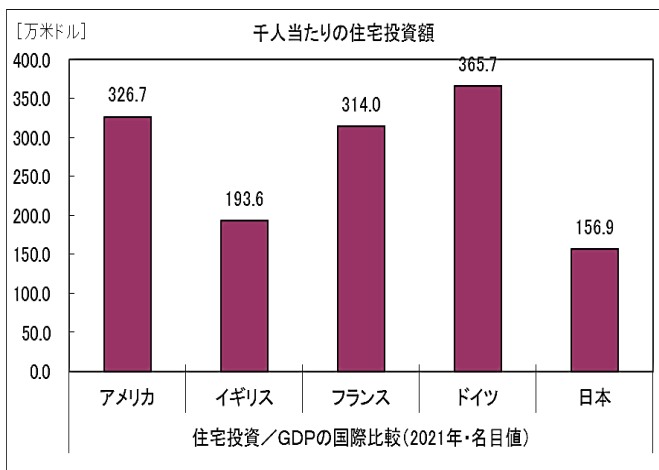
	総計	持家	借家	借家			
				民営借家	公的借家	公営借家	公的助成借家
アメリカ('21)	100.0% 128,504	64.2% 82,513	35.8% 45,991	30.8% 39,617	5.0% 6,374	2.5% 3,175	2.5% 3,199
イギリス('21)	100.0% 23,740	65.1% 15,455	34.9% 8,285	18.2% 4,325	16.7% 3,961	6.5% 1,535	10.2% 2,426
ドイツ('22)	100.0% 39,278	42.0% 16,503	58.0% 22,772	—	—	—	—
フランス('21)	100.0% 37,388	47.1% 17,598	43.2% 16,162	19.5% 7,297	23.7% 8,865	—	—
日本('18)	100.0% 53,616	61.2% 32,802	35.6% 19,065	28.5% 15,295	5.0% 2,670	3.6% 1,922	1.4% 747

(4)人口千人当たりの新設住宅着工戸数

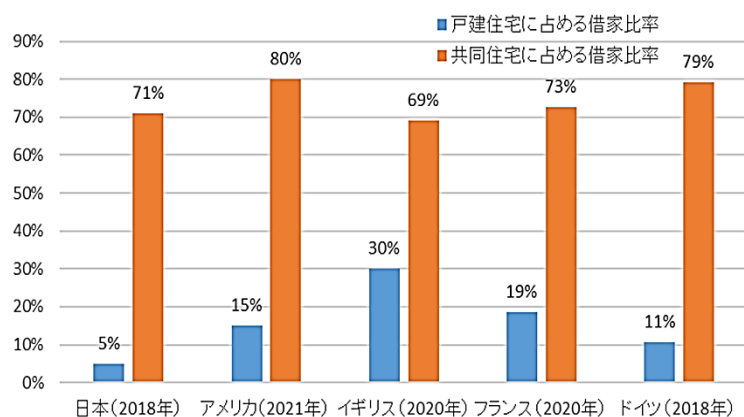
(戸/千人)



(5)人口千人当たりの住宅投資額

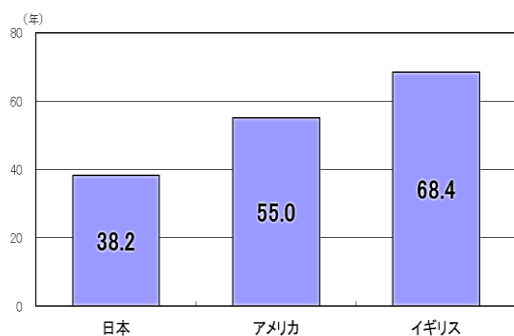


(6)戸建住宅における持家と借家率の国際比較



(7)住宅の利活用期間と既存住宅の流通

①滅失住宅の平均築後年数の国際比較



②既存住宅の流通シェアの国際比較

